



## 2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年1月29日

上場会社名 高松機械工業株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 6155 URL http://www.takamaz.co.jp/  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)高松 宗一郎  
 問合せ先責任者 (役職名)常務取締役 管理本部長 (氏名)四十万 尚 (TEL) 076-274-1410  
 四半期報告書提出予定日 2021年2月10日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2021年3月期第3四半期の連結業績(2020年4月1日~2020年12月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	9,925	△42.1	△73	ー	65	△95.7	△97	ー
2020年3月期第3四半期	17,135	3.2	1,396	△9.0	1,544	△8.2	1,066	△8.5

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 △167百万円(ー%) 2020年3月期第3四半期 1,063百万円(△0.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2021年3月期第3四半期	円 銭 △8.93	円 銭 ー
2020年3月期第3四半期	98.74	98.28

(注) 2021年3月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益につきましては、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2021年3月期第3四半期	百万円 20,204	百万円 15,330	% 75.8
2020年3月期	24,252	15,721	64.7

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 15,310百万円 2020年3月期 15,695百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2020年3月期	円 銭 ー	円 銭 10.00	円 銭 ー	円 銭 15.00	円 銭 25.00
2021年3月期	ー	5.00	ー	ー	ー
2021年3月期(予想)	ー	ー	ー	5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	13,444	△38.7	△213	ー	△12	ー	△137	ー	△12.65

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

業績予想の修正につきましては、本日(2021年1月29日)公表しました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2021年3月期3Q	11,020,000株	2020年3月期	11,020,000株
2021年3月期3Q	114,745株	2020年3月期	114,745株
2021年3月期3Q	10,905,255株	2020年3月期3Q	10,804,364株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症への対応として、感染拡大の防止策を講じる中で、各種政策の効果や海外経済の一部改善もあり、わずかに景気持ち直しの動きが見られました。一方で、冬季に入り感染が再拡大しつつあり、先行きは依然として不透明な状況です。

当社グループの主力分野である工作機械業界においては、新型コロナウイルス感染症や米中貿易問題継続の影響などによる設備投資抑制の動きから、日本工作機械工業会が発表した2020年暦年の業界受注総額の実績は、前年同期比26.7%減の9,018億円となり、2010年以来10年ぶりに1兆円を下回る低水準となりました。

このような状況の中で、当社グループの当第3四半期連結累計期間の連結売上高は前年同期に比べ72億9百万円(42.1%減)減収の、99億25百万円となりました。利益面では、生産調整や残業抑制、原価低減や経費削減、役員報酬カットなどの施策に取り組んでおりますが、事業環境の変化により売上高が大きく減少した影響から、営業損失は73百万円(前年同期は13億96百万円の営業利益)、経常利益は65百万円(前年同期比95.7%減)、親会社株主に帰属する四半期純損失は97百万円(前年同期は10億66百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益)となりました。

セグメントごとの経営成績を示すと、次のとおりであります。

## ① 工作機械事業

当第3四半期連結累計期間の経営成績は、受注高が37億71百万円(前年同期比31.1%減)、受注残高が47億42百万円(同56.7%減)、売上高が82億40百万円(同45.5%減)、営業損失が1億87百万円(前年同期は12億14百万円の営業利益)となりました。

受注高は、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う先行きの不透明感から設備投資に対する慎重姿勢が継続し、低調に推移しました。地域別内訳は、全ての地域で減少し、特に北米向けが大きく減少した結果、内需が28億44百万円(前年同期比8.8%減)、外需が9億27百万円(同60.6%減)となりました。

売上高の地域別内訳は、全ての地域で減少し、特に国内向け、アジア向け及び北米向けが大きく減少した結果、内需が58億59百万円(同36.3%減)、外需が23億81百万円(同59.9%減)、外需比率が28.9%(前年同期は39.3%)となりました。

当第3四半期連結累計期間における主な取り組みとして、新型コロナウイルス感染症の影響で厳しい環境が継続しているものの、工作機械の需要は緩やかに改善しており、収益回復に向けてリアルとデジタルの両面で受注獲得に注力してきました。

11月には、新型コロナウイルス感染症の徹底した感染防止対策を実施した上で本社プライベートショーを開催しました。会場では、新製品「XT-8MY」を筆頭とした多彩な製品ラインナップに加え、当社の強みの一つである、機械本体と周辺装置の連結事例も展示し、来場されたお客様にトータルサポートを提案しました。また、ニーズのあるお客様への訪問営業や、技術・製造部員の同行による生産性向上提案等を実施するなど、対面営業の強みを活かした需要の掘り起こしをはかってきました。

デジタルを活用した営業活動として、初のオンライン開催となったJIMTOF2020に出展し、動画配信や資料掲載を通じて新製品や加工技術の紹介を行いました。また、YouTube公式チャンネルで継続的に新規動画を投稿するなど、主要な展示会が中止や延期となった中でも国内外各地のお客様に情報提供を行ってきました。

生産面では、需給状況に応じた生産調整を行いつつ、ユーザーニーズの多様化や短納期化に応える設計・製造対応を推進し、最適生産の実施に努めてきました。また、需要回復期に迅速な対応と更なる生産対応が可能となるように、従業員教育・トレーニングの徹底をはかるなど、生産性の向上にも取り組んできました。

製品面では、市場ニーズ・ユーザーニーズに応える新製品開発とともに、IoTやAI等のデジタル技術を活用する研究開発の取り組みを推進してきました。

## ② IT関連製造装置事業

当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高が12億10百万円(前年同期比14.7%減)、営業利益が1億37百万円(同36.5%減)となりました。

半導体関連やその他の既存取引先からの安定した需要により、売上高は堅調に推移しました。

一方で、製品構成比の影響及び販管費の上昇等により、営業利益は減少しました。

## ③ 自動車部品加工事業

当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高が4億74百万円(前年同期比19.0%減)、営業損失が25百万円(前年同期は30百万円の営業損失)となりました。

第1四半期に既存取引先が行った生産調整の影響が大きく、売上高は減少となったものの、2020年7月以降の自動車部品の需要は回復傾向にあり、また、適切な生産対応とコストダウンに取り組んだ結果、営業損失はわずかに減少しました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は202億4百万円で前連結会計年度末に比べ40億47百万円の減少となりました。

区分別にみますと、流動資産は137億66百万円となり、前連結会計年度末に比べて39億26百万円減少しました。その主な要因としては、電子記録債権が15億57百万円、受取手形及び売掛金が12億35百万円、たな卸資産が11億5百万円減少したことによるものです。

固定資産は64億38百万円となり、前連結会計年度末に比べて1億21百万円減少しました。その主な要因としては、投資その他の資産のその他(繰延税金資産等)が1億70百万円減少したことによるものです。

次に当第3四半期連結会計期間末の負債は48億74百万円で前連結会計年度末に比べて36億56百万円の減少となりました。

区分別にみますと、流動負債は35億円となり、前連結会計年度末に比べて36億26百万円減少しました。その主な要因としては、流動負債のその他(営業外電子記録債務等)が1億37百万円増加したものの、電子記録債務が22億52百万円、支払手形及び買掛金が8億60百万円、未払法人税等が3億27百万円、賞与引当金が1億81百万円減少したことによるものです。

固定負債は13億74百万円となり、前連結会計年度末に比べて29百万円減少しました。その主な要因としては、長期借入金が37百万円減少したことによるものです。

当第3四半期連結会計期間末の純資産は153億30百万円で前連結会計年度末に比べて3億91百万円の減少となりました。その主な要因としては、利益剰余金が3億15百万円減少したことによるものです。なお、自己資本比率は75.8%となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の予想につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により、経済環境は引き続き厳しい状況にあります。経済活動の再開等によって緩やかに持ち直しの動きが見られることで、当社グループの主力分野である工作機械事業にて国内市場の需要が緩やかに回復していることから、売上高は前回予想を上回る見通しです。また、売上高の増加、経費圧縮施策の成果、コロナ禍の影響による経費減少及び雇用調整助成金による収入等により、利益についても前回予想を上回る見通しです。

詳細につきましては、本日(2021年1月29日)公表しました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,592	5,552
受取手形及び売掛金	3,128	1,893
電子記録債権	4,541	2,984
商品及び製品	1,271	1,223
仕掛品	1,931	1,035
原材料及び貯蔵品	1,058	896
その他	177	184
貸倒引当金	△8	△4
流動資産合計	17,693	13,766
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,372	1,329
土地	2,461	2,461
その他(純額)	836	913
有形固定資産合計	4,671	4,703
無形固定資産	24	41
投資その他の資産		
その他	1,897	1,727
貸倒引当金	△34	△34
投資その他の資産合計	1,863	1,692
固定資産合計	6,559	6,438
資産合計	24,252	20,204

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,619	759
電子記録債務	3,431	1,178
短期借入金	760	690
未払法人税等	335	8
賞与引当金	224	43
役員賞与引当金	45	—
製品保証引当金	55	28
その他	654	791
流動負債合計	7,127	3,500
固定負債		
長期借入金	386	348
退職給付に係る負債	701	711
長期未払金	258	258
その他	57	55
固定負債合計	1,404	1,374
負債合計	8,531	4,874
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,835	1,835
資本剰余金	1,789	1,789
利益剰余金	11,987	11,671
自己株式	△105	△105
株主資本合計	15,506	15,190
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	83	78
為替換算調整勘定	222	120
退職給付に係る調整累計額	△116	△78
その他の包括利益累計額合計	189	120
新株予約権	21	15
非支配株主持分	4	3
純資産合計	15,721	15,330
負債純資産合計	24,252	20,204

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)
売上高	17,135	9,925
売上原価	12,971	7,852
売上総利益	4,163	2,073
販売費及び一般管理費	2,767	2,146
営業利益又は営業損失(△)	1,396	△73
営業外収益		
受取利息	5	5
受取配当金	8	8
持分法による投資利益	140	—
助成金収入	—	99
その他	36	35
営業外収益合計	191	148
営業外費用		
支払利息	3	2
為替差損	39	—
持分法による投資損失	—	6
その他	0	0
営業外費用合計	43	9
経常利益	1,544	65
特別利益		
固定資産売却益	0	0
新株予約権戻入益	0	10
特別利益合計	1	10
特別損失		
固定資産除却損	2	0
特別損失合計	2	0
税金等調整前四半期純利益	1,543	76
法人税、住民税及び事業税	445	23
法人税等調整額	34	151
法人税等合計	480	174
四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,062	△97
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△4	△0
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	1,066	△97



四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,062	△97
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	46	△5
為替換算調整勘定	△16	△95
退職給付に係る調整額	11	38
持分法適用会社に対する持分相当額	△41	△6
その他の包括利益合計	0	△69
四半期包括利益	1,063	△167
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,067	△166
非支配株主に係る四半期包括利益	△4	△0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。